年頭のご挨拶

加古川はぐるま福祉会後援会
会長　前川　忠範

新年あけましておめでとうございます。

平素は加古川はぐるま福祉会後援会の活動にいろいろとご支援ご協力をいただき心より厚く御礼を申し上げます。

昨年は元旦早々能登地方で大きな地震が発生。世界的にも自然災害が多発しておりますし、侵略戦争も終結が見えてきません。また、日本でもアメリカでも選挙が行われ、今年はニューリーダーの下、政治経済をはじめとする様々な課題に立ち向かうこととなります。私たちが安心して安全に生活するためには、これまで以上に自助努力が求められているように感じます。

ところで、今年の干支は『巳』年です。み・蛇は神様の使いとして昔から大切にされ脱皮を繰り返し不老不死のシンボルです。そのため再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく年と考えられています。ぜひそんな良き一年であってほしいと願っています。

◆　◆

私が加古川はぐるま福祉会後援会の会長に就任させていただき早3回目のお正月を迎えました。去る6月28日後援会役員会を開催させていただきました。事務局から加古川はぐるま福祉会が設立満45年を迎えた現在の運営状況の報告を受けました。40年を節目に自主自立を掲げて新生「加古川はぐるま福祉会」として障害のある方や家族の方、そして地域のために各事業が連携して地域貢献されていることや、多種多様なニーズにも精一杯応えながら加古川はぐるま福祉会が大切にされてきた基本理念「施設は守る場所ではなく、自分の人生を切り開くために必要な力を養う場所」という理念を継承しながら取り組まれてきました。しかし、近年、立地場所の不便さ等から利用者集客という点で苦戦されている状況も分かりました。

一方、後援会活動におきましてもコロナ禍以降、会員拡大のための啓発機会が減少したことや人々の支援活動の多様化もあり、会員数が減少していることがわかりました。また今年度は役員改選期で新役員を選出。時代や社会環境の変化に合わせた規約改正も行いました。

本後援会は発足以来、満45年間、加古川はぐるま福祉会の活動と共に歩み、財政的に応援することと障害のある方の理解啓発、そして共生社会の実現を目指してきました。長く継続会員として応援して頂いている会員の皆さんに感謝するとともに、一人でも多くの皆様にこの趣旨にご賛同いただけるように役員が先頭に立って努力しようと話し合いました。

本後援会は任意の組織ではありますが、こんな不安一杯の時代であるからこそ、人と人が繋がり誰かのためにほんの少しだけでも支え合う心を育む活動が必要であると痛感しています。

◆　◆

ところで私の本業は造園土木業を経営しています。またロータリアンとして仕事を通じて職業奉仕に努めておりますが、これまで障害のある方を直接知る機会はほとんどありませんでした。縁あって後援会会長をさせていただくようになり施設訪問する機会もありますが「知る機会」をいただき利用者さんのことが気になるようになりました。その一つが「会報はぐるま」です。新春号127号の表紙絵ご覧いただきましたか。生活支援センター「通所生活介護事業」の利用者さんが昨年7月ごろから取り組んだ共同作品だそうです。少しずつ、時間をかけて、頭をくっつけ合って一生懸命取り組まれている姿が目に浮かびます。

最後に非常に厳しい時代ですが初心を忘れずに後援会会員の皆様と共に共生社会実現のため更なる会員拡大に努めてまいりたいと思います。今年もご支援、ご協力の程よろしくお願いします。

2024年10月23日

加古川はぐるまの家　就労継続B型日帰り旅行
神戸どうぶつ王国に行ってきました

今回は、施設の恒例行事でもあった「日帰りバス旅行」を実施することができました。コロナ禍で中止となり、5年ぶりの実施でした。日頃、作業をする場面しか見ることのない利用者さん達が、動物たちと触れ合う姿、他の利用者さん達と笑顔で楽しんでいる姿、家族や自分用にと、お土産を選ぶ姿など、旅行ならではの普段とは異なる様子を見られたのは良かったなぁと思いました。加えて、神戸どうぶつ王国からの帰りのバス車内で、「あ～楽しかったぁ」と、ある利用者さんの一言が聞こえてきました。また「来年は○○に行きたいなぁ」とか「いや△△に行く方がエエわ」など、来年への楽しみ、期待の声も聞こえていました。

我々、職員もそうですが、利用者さん達もやはり、「働く」上で「楽しみ」は必要です。加古川はぐるまの家は「働く」ことを大切にしておりますが、「楽しみ」も取り入れながらより良い働きに繋がるようにと考えています。今後も利用者さんと共に「働く」と「楽しみ」を味わうことができれば・・・と感じた日帰りバス旅行でした。

（就業支援部　合戸　平）

5年ぶりの日帰り旅行。初めて参加する利用者の方、職員が半数以上で楽しみ半分、不安半分の出発でした。天気予報は雨マークでしたが、到着したときには雨はやみ、傘を使用することはほとんどなく、みんなの願いが届いた一日でした。

SNSで予習していた利用者の方も多く、配布した園内のマップやしおりをみんなで見ながら「ハシビロコウを見に行きたいね」「動物の えさやりする！」「カバはいるのかな」「お土産いっぱいあるの？」などなど、行きたい場所 ややりたいことなどを話し合っていました。

当日は班行動でしたが、バードパフォーマンスを観覧したり、カピバラやカンガルーの餌やり体験、わんにゃんタッチに参加、スイーツを食べるなどそれぞれゆっくりと楽しい時間を過ごしました。

お土産コーナーでは自分の欲しい物、家族や友人になど上手に選んでいました。帰りのバスの中で、「来年はどこ行こうか」と話し合う利用者さんもいました。作業室では見られない表情を見ることができ、笑顔がいっぱい溢れた一日を過ごすことができました。作業を頂いている企業の方や多くの方の協力のもと楽しい一日をいただき、ありがとうございました。

（就業支援部　横田　希）